

皆さんこんにちは。岐阜県中央メーデー実行委員長の森です。今年メーデーは戦後、1946年に復活して以来、75回目のメーデーです。そして、残念ながら最も寂しいメーデーとなりました。参加したくても出来ない仲間、自宅待機や休業を余儀なくされている仲間、不当な解雇により生活の困窮を強いられている仲間、そして、感染リスクの中、今も膨大な仕事と向き合い続けている仲間に、心より連帯の気持ちを送りたいと思います。

日頃より労働組合をはじめ、民主団体、地域で奮闘されている皆様に敬意を表します。

今、世界は新型コロナウイルス感染症の蔓延により、経済活動が停滞し、社会活動の殆どが停止した状態になりつつあります。そして人として最も大切である筈の、日本国憲法第25条にも明記されている生存権が侵されています。

皆様もご存知のように、メーデーは1886年、アメリカ・シカゴで「8時間は仕事のために、8時間は休息のために、残りの8時間は自分たちの趣味のために」とスローガンを掲げたことから始まり、今に至ったと聞いております。日本では1920年に

第1回メーデーが開催され、あの治安維持法によって開催中止を余儀なくされた10年間を除き、毎年開催されてきました。今年には感染症予防のため、集会とデモ行進は中止しましたが、記念すべき100周年を祝うべく、実行委員のみの式典として開催いたしました。感染症予防には十分気を配っての開催ですので、ご理解いただきます様、お願いいたします。

世界的な感染症の大流行は100年に一度と言われますが、グローバリズムに多い尽くされた現代においては、世界的な感染が文字通り全大陸・全諸島に広がっています。人類は真綿で絞められるように、じわじわと先の見えない恐怖に怯えています。直接的なライフラインに関わる職務を除き、あらゆる業界で休業と自宅待機が求められています。この日本においても、国民は休業と自宅待機を政府から要請されています。政府は要請と言いますが、実際には命令と同じ意味を持つようになっています。要請に従わない事業所・個人は世間からバッシングされ、社会的な制裁を受けるからです。

この間、岐阜県労働者相談センターに寄せられる相談は増加し、深刻な実態を訴える方が増えています。解雇、賃金補償無き自宅待機命令、休業補償無き休業命令、倒産。経済活動の自粛を

事実上強制されているのに、休業補償は無く、どうすれば良いのか、このまま自分の人生は終わってしまうのか、とても悲惨な実態が寄せられています。

私の周りでも、要請という名の休業命令によって経済活動を断念し、じりじりする思いで日々を過ごしている個人事業主が居ます。開店休業状態で自分の雇用がどうなるか全く分からない従業員が居ます。私には彼等の声を聞き、励ます事しかできません。彼等を安心させるために、しっかりした休業補償を国に切望します。例えが悪くて申し訳ありませんが、休業を命令して補償しないのでは緩慢な死刑に等しいとさえ思います。

一方で感染リスクと背中合わせで膨大な業務に従事する方々が居ます。医療従事者、感染症関連の業務で働く公務員、スーパー・コンビニ等の小売業、通販や宅配を担う運送業の方々、仕事量が増大し、疲弊しながらも地域住民のライフラインを守るために働いています。先日、岐阜大学病院に勤める看護師が、職場での感染者発生を理由に保育所から子どもの預託を断られたとの報道を目にしました。また、感染者の住所氏名が何者かによってつきとめられ、SNSで情報を晒して事実無根の中傷や脅迫まがいの言葉を書き連ねてあったと三重県知事が記者会見で話していました。例え自宅待機に努めていても、絶対

に感染しないとは言い切れないのが今回の感染症です。看護師など、感染リスクを冒して業務に従事されている方に、随分な仕打ちではないでしょうか。三重県の事例も、感染された方はライフラインに関わる業務に従事されている方と聞きました。こうした方々を排除する事は私たち自身の生活基盤を覆してしまうこととなります。今は相手を攻撃する時ではありません。助け合わなければ、やがて私たちは共倒れとなるのです。

私たちは新型コロナウイルス感染症を怖れます。それは正しい認識です。しかし人を怖れてはいけないと思います。人間は一人では生きていけない生き物です。こんな時だから、自分の隣人を猜疑してはいけない。知人や職場の同僚、地域住民を猜疑してはいけないと思います。皆一生懸命生きているのです。自分も一生懸命生きているけど、他の人も一生懸命生きているのです。今回の感染症では世界中が被害者ばかりです。被害者同士で傷付け合うのは厳に慎むべきだと思います。

労働組合は団結してこそ力を発揮する組織です。上意下達で動く組織ではありません。それだけに、組合員一人一人がお互いに寄り添い、助け合って動かなければたちまち機能不全になる組織です。しかし団結した時は信じられないほど大きな力を発

揮する組織です。こんな時だからこそ、私たちは団結したいと思います。皆一人ぼっちじゃないと声を大にして言いたい。皆さんには、皆さんの出来る範囲で、感染症予防に努めながら、組合員に寄り添い、地域住民に寄り添っていただきたいと思います。団結して、頑張ろう！

2020年5月1日

第91回岐阜県中央メーデー実行委員長
森 正樹